

11月2日、ボランティア講座「技術編」が
寝屋川市民会館第1会議室で開かれました。

同「シニア編（9月3日）」に続いて、摂南大学の上野山先生（同大学教務部イノベーションセンター講師／博士）と4人の学生の皆さんを講師に迎えて動画編集などの講習の時間に。



講師の皆さんの自己紹介から始まり・・・



世代を超えて「動画発信やボランティア活動」についての
思いが・・・

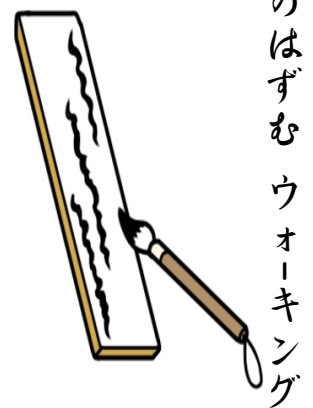
後半の交流会では「動画」について、ボランティア活動に関しての意見交換に話が盛り上がりました。

参加者からは「さっそく動画編集に挑戦してみたい。現状の背景からも、動画での発信の必要性を感じました」との声が寄せられました。

ちょっと一息

本紙2面【「ボランティア部会通信」発行】記事
関連川柳

ウォーキング 動く足より 口ばかり
また食べた 体重計の あの怖さ
レジの列 皆がふり向く 咳ひとつ
孫のこえ 耳かたむけ でんわ待つ
膝いたい 私も腰がと もり上がる
コロナかな 二重マスク 色とりどり
毎日の 散歩いきいき よい気分
河川敷 生えてる草が ド根性
毎朝の 軽いあいさつ 朝顔あり
あの世から 呼んでくれるな まだ遊ぶ
目くばり 気くばり 思いやり
今生きる 楽しさ 皆に分けて 幸せに
ベンツから 乗り換えたのは 車いす
うまかった 何を食べたか 忘れたが
仲いいね いいえ夫は 杖代わり
移り住む 朝の歩みに 弾む口
独り居の 対話のはずむ ウォーキング



編集発行：寝屋川市社会福祉協議会ボランティアセンター

電話：072-838-0400

URL <http://www.neyagawa-shakyo.or.jp>



ホームページ ツイッター インスタグラム フェイスブック

上記の QR コードを携帯電話やスマートフォン等から読み取ると、本会の各 SNS ページにつながります

コロナ禍の中でも元気に活動

制約を乗り越えて・・・

東へ西へ～

む がく
「夢楽らいふ」

結成 19 年 ボランティア

コロナ禍により3密が問題視され活動先が外部受入れ不可となり、活動が激減していましたが、第5波がようやく下火となり最近ではボランティア依頼が増えてきたようです。「夢楽らいぶ」一座の音楽活動は参加型スタイルが特徴。

“一緒に歌う”“ハイタッチ”“握手”など、会場全体が楽しむことで大変盛り上がります。

コロナ禍が少し収まったとはいえボランティア活動はいろいろ制約があるようです。ワクチン接種証明書の提示、マスク、フェースシールド着用、施設によっては1週間の健康チェック表の記入など各施設の決め事が違い、何を言われてもすべて笑顔で受け入れ、対応することになっているそうです。他市では、このグループはワクチン接種済で安全ですよ施設にお知らせしてくれたことで活動再開のキッカケになったりしているそうです。

活動の中でも握手はエアークラッシュに変え、一緒に唄うことは振り付けに変えるなど工夫して、いかに利用者と共に楽しめるかを

「夢^む楽^{がく}らいぶ」一座

結成 19 年、ボランティア活動
3,850 回。高齢者、障害者施設へ
の音楽活動や「野崎地域おこし」
への貢献、FM ラジオ放送など幅
広く活動しているグループ
(登録ボランティアグループ)



会場全体が音楽で楽しいひと時＝市内高齢者施設

第一に考えているようです。とはいえ、食事会や公民館での活動などまだ再開できないものもあるようです。

各施設の対応が様々なので、要望をていねいに聞き取り満足していただけるように準備する調整力がいちばん気を使っているところであると明るく話してくださいました。(野涯)

校区福祉委員会の昨日今日

長引くコロナ禍で、部会員・高齢者の皆さん共に家に引きこもりがちです。

「何かやらなくては皆気分が沈んでしまう」。部会員で話し合いの結果ボランティアと高齢者のひとり暮らしの皆さんとのコミュニケーションづくりのため「ボランティア部会通信」を発行することにしました。

個人の趣味や、地域のほんわかする出来事、クスッと笑みがこぼれることなど季節を感じる事柄、自分流の楽しみ、俳句、川柳（4面に掲載）どんなことでもいいので投稿していただき紙面で発表することにしました。もちろん人気のクイズも出題し、正解者には景品を出しました。校区にはひとり暮らしの方が、500人弱。100強の方から返信・投稿が届きました。

「ボランティア部会通信」発行
点野校区

全体的に受け入れられたのではないのでしょうか。次号を楽しみにしてもらっているようで年3回の発行を予定しています。

次号のメインは部会員も楽しめるようなものは？クイズは？と、いろいろと意見収集中です・・・ご近所でネタ探し・・・新しい物の発見!!



「つながり」づくりを目的に発行された「ボランティア部会通信」

活動の制約下にあっても、地域の皆さんと共に工夫を凝らしながら、活動を続けています。

11月13日に地域内の公園を中心にスタンプラリーを開きました。



「楽しく歩いて、地域のこともいろいろ知ることができました」との声も

工夫凝らして地域再発見
楠根校区

午前・午後に分かれて222人の参加者はそれぞれに、久しぶりの再開。話に花を咲かせていました。

午前の部 一般参加者から～

○久しぶりに会えてうれしい
○スタンプラリーは適度の距離が保てて、安心して参加、楽しむことができた
○企画してくださった皆さんに感謝です

午後の部 保護者・子供から～

○元気いっぱいの子供の姿に目でも楽しみました
○ラリー中地域の様々な発見がありました。
○お母さんと一緒に歩けたので、おもしろかった

「コロナ禍でもできるV活動」のその後

V相談員からのメッセージ

個人VとV相談員の協働作業

「コロナ禍でもできるボランティア」の呼びかけに施設から牛乳パック椅子が欲しいと希望があり、校区ボランティア部会から複数の牛乳パック椅子を作成し施設に寄付をしていただきました。ありがとうございました。

個人登録ボランティアにも呼び掛けたとこころ4人の希望があり、ボランティアセンター相談員と一緒に牛乳パック椅子を作りました。参加者からは～

- みんなで作業できて楽しかった！
- ボランティア活動してるが、コロナ禍に阻まれてままだらう、今日はうれしい
- このような企画があれば、また教えてほしい
- 自分の年を忘れて、仕上げるのができてうれしかった

などの感想が寄せられました。

相談員として、日頃接することの少ない個人ボランティアの皆さんと同じ作業をできたことはとてもうれしかったです。

ありがとうございました。(尾崎)



「協働作業も楽しいですね」会話とともに作業も進みました!!ボランティアセンターにて



ハサミ片手に牛乳パックに挑戦

新型コロナの感染拡大防止のために約2年間活動が自粛になり、それぞれで工夫しながら日ごろの活動を続けておられることと思います。

このような時期だからこそ個人登録していただいている皆さん同士の情報交換の場を持ちたいと考え、ボランティアセンターで活動調整中の「牛乳パック椅子」作りで良い雰囲気でのよもやま談義のご案内をしました。

初の試みでもありましたが、4人の出席がありました。

当日は、ハサミやガムテープを片手に「牛乳パック椅子」作りをしながら、近況や、これからの活動に対する思いなどをお聞きし、これからも気軽にお越しいただきたいことをお伝えし、「牛乳パック椅子」も完成。楽しく時間が過ぎました。

協働作業で取り組んだ牛乳パック椅子は立派に完成して、必要な所へ嫁ぐ日のために待機しております。

これからもこのような活動を企画してきたいと思っています。

ありがとうございました。(中村)